

(様式第1号)

平成30年度 第2回芦屋市放課後子どもプラン運営委員会 会議録

日 時	平成31年2月12日(火) 15:00~17:00
場 所	北館4階 教育委員会室
出席者	委員長 酒井 達哉 副委員長 成田 直美 委員 長谷川 栄子 委員 孝岡 知子 委員 金本 ひとみ 委員 江守 易世 委員 池田 明子 委員 法兼 茂子 委員 中田 伊都子 委員 木下 新吾
事務局	社会教育部長 田中 徹 生涯学習課長 茶嶋 奈美 生涯学習課係長 小山 慶子 生涯学習課 金子 奈央 青少年育成課長 近田 真 青少年育成係長 山崎 元輝 青少年育成課 上田 裕之 青少年育成課 松本 淳子
会議の公表	■ 公 開
傍聴者数	0人

1 会議次第

(1) 開会

(2) 議題

ア 平成30年度事業報告について

イ あしやキッズスクエアについて

ウ 平成31年度放課後プラン事業について

エ その他

(3) 閉会

2 提出資料

- ・ 【資料1】校庭開放・教室型事業について

- ・ 【資料2】 あしやキッズスクエアについて
- ・ 【資料3】 平成31年度放課後プラン事業について

3 審議内容

議題に入るまで茶嶋生涯学習課長により進行

<酒井委員長>

それでは、議題（1）平成30年度事業報告について、事務局から説明をお願いします。

<事務局：金子>

（配布資料：【資料1】に基づき説明）

<江守委員>

校庭開放事業への参加人数が少ないと思いますが、この事業は徐々になくなっていく予定なのでしょうか。例えば、あしやキッズスクエア事業へ変わっていくような形を予定されているのでしょうか。それともこのまま継続されていく予定でしょうか。

<事務局：小山>

昨年度までは平日にも校庭開放事業を実施していましたが、平日実施分は全てあしやキッズスクエア事業へ移行しました。

現時点の計画では、土曜日の校庭開放は今後も継続して実施していく予定です。

<事務局：茶嶋>

昨年度までの放課後子どもプラン運営委員会にて、校庭開放事業の実施についていろいろと協議を重ね、現在の形になりました。

今後も現在の形で継続して実施する予定ではありますが、参加人数のことなどもありますので、「校庭開放のために開けている時間がもったいない」等のご意見がございましたら、今後もこの委員会で協議していきたいと考えております。

<法兼委員>

校庭開放事業実施中は、どなたか1名、指導員の方が付かれていますのでしょうか。

<事務局：金子>

はい。安全管理人が各校につき1名ついております。

<酒井委員長>

今ありましたように校庭開放事業の実施について、もしご意見がありましたら、今いただきたく思います。

それでは、来年度も現在と同じく土曜日のみ校庭開放を実施していく形でよろしいでしょうか。

それでは、次の議題に移ります。

議題の（２）あしやキッズスクエア事業について、事務局より説明をお願いします。

<事務局：上田>

（配布資料：【資料２】に基づき説明）

<中田委員>

あしやキッズスクエア事業は、マネージャー等を地域の方にしていただいている学校がありますが、参加している子どもたちと地域の人との交流や、マネージャーの方との仲の良さはどのような感じであるか伺いたいです。

<事務局：上田>

文部科学省の方のおっしゃるような芦屋市の成功した秘訣というのは、地域の方にマネージャー等をしていただいたという点に尽きると思っています。

芦屋市では現在、全8小学校中6校を地域の方にマネージャー等をしていただき、精道小学校と潮見小学校の2校は芦屋市シルバー人材センターに業務委託しています。来年度、精道小学校については、地域でされたいという声があり地域の方をお願いする方向で現在進めています。

地域の方をお願いしている地域では、「子どもたちに声がかげやすくなった」という声をよく聞きます。現在、一般的には子どもたちに気軽に声をかけることはセキュリティ上ためられることも多いかと思いますが、マネージャーをされている地域の方はバス停などでキッズスクエアに参加している子どもたちや保護者の方と会われた際は、子どもたちの方から声をかけてもらえることがあったり、逆にマネージャーをされている地域の方自身も子どもたちの名前がわかるので声をかけやすかったりというように、地域の方も子どもたちもお互いに声をかけやすいような、町としてよい人間関係が築けていると聞いています。

保護者の皆様にも感謝していただけている一方で、もちろんトラブルはあります。保護者の皆様からご意見をいただけることはありがたいのですが、御要望があまりにも多過ぎると、マネージャーでも対応しかねる点があるかと思っています。その点に関しては、春に行なう説明会などで、「あしやキッズスクエア事業は塾やお稽古ではなく、居場所づくりの事業として地域の方の協力の下成り立っている」ということを、保護者の方に行政からお伝えすることで、保護者の方に事業の趣旨を御理解いただけるよう、行政が調整役となっていけたらと考えています。

<孝岡委員>

あしやキッズスクエア事業で一番重要なことは、地域のコミュニティーが深まる点だと私も思っています。ですが、全8小学校中2校が地域でされていないという点が気になります。地域によって差がないような状態がよいのではないかと思います。

今後、地域の方に呼びかけられたりすることが必要になると思いますが、どのような形で呼びかけられるのでしょうか。今お話を伺っているかぎりですと、口コミのような形で広められるのでしょうか。

<事務局：上田>

平成31年度は潮見小学校を芦屋市シルバー人材センターに業務委託で、他の7校を地域でという形で行なう予定です。潮見小学校だけが地域という形ではありませんが、潮見地区のシルバー人材センター会員の方は、ほとんどがシーサイドの地域にお住まいの方です。現在、精道小学校で協力していただいているシルバー人材センターの会員の方は、山手の地域も含めて、様々な地域の方が協力されているため、地域でされているというような意識が潮見小学校に比べて高くなかった面もあるように思います。潮見小学校についてはほとんどがシーサイド地域にお住まいの方のため、直接地域の方をお願いしている形ではありませんが、ある程度は地域の方に見ていただいているような形を取れている状態だと考えています。

潮見小学校では、本運営委員会委員の長谷川校長先生が潮見小学校に教頭先生としていらっしゃった時から、学校よりキッズスクエアのスタッフに細かく対応していただいているため、スタッフも育ってきています。

また、今後いずれ地域の方に御協力いただけない時が来た場合を考慮すると、全てを地域に委託してしまってもよいのか、という点もあります。1, 2校だけでも、芦屋市内で一番人員を供給していただけるシルバー人材センターに継続して委託し、スタッフのノウハウを途切れないようにするのも方法ではないかと考えています。もちろん、全校を地域とする良さもあると思いますので、今後の運営方法は模索していきたいと思っておりますが、あしやキッズスクエア事業を今後も継続していく上で、シルバー人材センターに委託するという必要とも考えています。

地域の方への呼びかけ方法について、公募をしたいとも考えてはいますが、やはり難しい点もあります。現在もボランティアの募集をホームページでも公開していますし、今度配布される広報あしやでも掲載する予定です。以前にホームページをご覧になられた市外の方の面接をしたこともあるのですが、残念ながらその方とは条件が合わず、キッズスクエアに来ていただくことはお断りさせていただきました。

今までの募集方法はほとんどが口コミや紹介です。よく知っている方からの紹介の方が、やはり子どもたちにとり適切な方を御紹介いただけるという点があります。公募だと面接だけでその人のことを見極めることは難しく、子どもたちの安全に関わることで、厳密な判断をしていく上で、危険性はどうしても高くなってしまいます。今の募集方法が公明正大であるとは言えない面もあるかもしれませんが、学校施設に出入りしていただくことになるという点も含めて、子どもたちの安全上、地域で活動実績のある方を中心にお声掛けをした方が、初期の段階である現在においては確実だと考えています。

今後、キッズスクエア事業の発展がひと段落してから、もう少し広く公募をすることはあるかもしれません。

<孝岡委員>

ボランティアを募集される際に、芦屋市在住者に限定はされないのでしょうか。市内の方のみを募集するような規定は作られていますか。

<事務局：上田>

例えば市外在住で、親戚が芦屋市内在住のため、よく芦屋市に来られる機会のある方など、芦屋市内在住でなくても、芦屋市にゆかりのある方でしたら問題ないと考えています。

基本的には、実施している小学校区にお住まいの方にお問い合わせきたらとは考えていますが、校区内の方だったら誰でもよい、というわけでもありません。やはり地域の方に御協力いただきたいということもありますが、信頼できる方をすべて地域から派遣できると言うわけでもありません。今後もある程度公募はしますが、引き続き基本は地域の方の紹介で募集していきたいと思っています。

プログラムに参加するのは子どもたちですので、子どもが好きで、プログラムを出来るような知識や見識を持っていて、保護者対応も出来るような方や、難しいところがあっても乗り越えてしようとしてくださるような方をいかにして見つけるかということと、募集方法の透明性との両立が今後の課題です。

<成田副委員長>

スタッフにしても、プログラムをされる方にしても有償であるという点について、少し視点を変えてお話しさせていただきます。

例えば、コミスクでお祭りの開催など地域活動をされている方や、地域で見守り活動をされている方はボランティアでされています。中には持ち出しさえしている場合もあります。これは「報酬がなくても子どもたちのためにしたい」という意思を持った方が集まることが出来るからこそ成り立っています。

私もキッズスクエアのマネージャーをしているので申し上げにくいのですが、有償であることが問題とは言いませんが、やはり報酬が発生すると「収入があるのであればする」という考え方も出てくると思います。

また、現在の金額は謝金にしては高いのではないかとも思っています。私は基本的に週1回しか入っていないのですが、もう少しマネージャーや指導員として入る回数を増やしてもいいのではと思う一方で、これ以上収入を増やすのも、とためらう部分もあります。

今後もこの金額のまま将来的に続くのかはわかりませんが、もう少し額を下げ、その分の予算を他の部分に充ててもよいのではないかと考えています。

<事務局：上田>

【資料2】にも記載しているように、時給はマネージャーが1,400円、安全管理員が900円、体験プログラム指導員が1,200円と、一見すると高価なイメージがあるかもしれませんが、キッズスクエアの勤務は1日2時間程度であり、1校につき少ないところでは4～5名、多いところでは10名程度の方で日ごとに交代しながら勤務していただいているので、平均すると週1回あるかないかの日数になり（夏休み

を除く)、マネージャーでもつき1～2万円程度の収入になりますので、決して高額な報酬を得ているというわけではありません。

ただしその一方で、成田副委員長が心配されるように、お金目当てで来る方が来られる危険性もあります。

現在地域の方に行っている依頼内容をボランティアベースで考えますと、実際にすごく難しいことを依頼している状況であり、ボランティアだから当日急遽来ない、ということがあると事業が成立しません。参加者のために年間230日、確実に実施することを考えると、やはりボランティアベースではなく、報償としてきちんとお支払いをして依頼する必要があると考えています。マネージャーの時給1,400円という額も、教育関係者の方に依頼する場合を含めて考慮し決定した額です。実際に、退職された元教員の方や、学校教育の分野でも依頼を受け活躍されている方に依頼している例もあります。そのような方を雇用する場合も考慮し、その方々に対する敬意も表す意味もあるため、ある程度の時給設定にする必要はあると考えています。キッズスクエアが成功した要因として、確かな時給をお支払いしているという点もあると思っています。

お金目当てではなく協力していただける方に謝礼を支払う形を維持して行くには、どのようにバランスを取って行く必要があるのか、というところが現在の課題です。体験プログラム指導員のなかには、持ち出しをされている方もいます。また、持ち出しはなくても、皆さん手間をかけて、参加する子どもたちのために準備してきていただいているので、結果としてそれに対する謝礼という意味でも報償を支払っています。

他市では、地域の方に一括で100～200万円程度の委託料を支払い、あとの内容をお任せされているところもあると伺っていますが、芦屋市では、現在のように150人の方一人ひとりにお支払する煩雑な手続きをする手間を惜しんででも、地域の方に協力していただきたいと考えているため、今の形を継続していくのが最もよいのではと考えています。

<酒井委員長>

子どもたちのために、という大きな目標を持ってあしやキッズスクエア事業に取り組みられているとは思いますが、実施されているプログラムが本当に適切なものであるのか、また今後どのようなプログラムを提供されたいと考えられているのが重要ですので、文章で拝見できればと思います。

また、第1回の運営委員会でも伺いましたが、学校教育との往還はありますか。キッズスクエアは本当に素晴らしい内容であると思っています。芦屋市の教育全体に視点を移し、キッズスクエアから学校教育に発展したことや、逆に学校教育の中からキッズスクエアの中に広がったような事例はありますか。

<事務局：上田>

広がり、というわけではありませんが、【資料2】にも記載している「インド文化交流」のプログラムは学校に紹介していただいたものをキッズスクエアに取り入れたものです。また、プログラミング教室のプログラムのような、学校の授業に転用できそうなものについては学校の先生方にも参加していただき、授業でそのまま取り上げていただけたらとも考えています。

地域と学校の協働については国や県でも力を入れて取り組んでいるところですが、芦屋市としてもキッズスクエアをとおして地域や企業とのパイプを作り、プログラムで繋がった人材を学校と繋げられたらと考えています。現在、人材の紹介などについて学校教育課とやり取りをしている、というわけではありませんが、教頭研修や指導主事の研修に伺い、キッズスクエアの取り組みについて説明する時間をいただいております、学校教育課や打出教育文化センターとキッズスクエアに関する情報は共有できている状態ではあります。

<酒井委員長>

人材バンクのような形で、キッズスクエアと学校教育で情報を共有し、芦屋市の子どものために活用していただけたらと思います。

<池田委員>

体験プログラムの実施がない時は、5～6年生など高学年の参加が少ないという話を聞いており、もったいないと思っております。

私にも高学年の娘がおり、たまにキッズスクエアの教室へ行くと、1年生などの低学年の子どもたちが喜んで寄って来てくれるので、一緒に遊んであげることがあると聞いています。兄弟のいない子どもも他の学年の子どもたちと交流できる場であり、学校で決まっているペア学年とは関係なくみんなで遊べる場でもあるので、もっと活用したらいいのに、と思っております。特に、高学年になると将来の夢をはっきり持っている子どももおり、将来幼稚園などの先生になりたいと思っている子どもたちにとっては、下の学年と交流できるよい機会だと思いますので、高学年への呼びかけがもっとあってもよいのではないかと思います。

また、キッズスクエアは地域の方と子どもたちが交流できるよい場だとも思います。以前に一度キッズスクエアを実施している教室をのぞいた際にも、子どもたちが地域の方の膝の上に座っている姿を見かけ、すごく楽しそうにしているな、と思いました。思い付きの提案ではありますが、スタッフとして登録されていなくても顔をよく知っている近所の方で当日予定の空いている方が、急遽プログラムとは別に、将棋などを教えられるようであれば、プログラムのない日でも楽しめるのではないのでしょうか。プログラムはプログラムとしていつも充実したものを実施していただいておりますが、プログラムのない日もせっかく空き教室に子どもたちが集まっていますので、そのような時間の使い方もよいのではないかと思います。

<事務局：上田>

保護者の方々のご意見が一番ありがたいと思っております。高学年の子どもたちも、もちろん塾やお稽古事などありますし、低学年の子どもたちばかりがいると参加しづらいこともあるかと思いますが、そこは体験プログラムの内容などで興味を持ってもらえるように努力しています。

また、居場所づくりとしても、池田委員がおっしゃってくださったように違う学年同士が交流できるような取組ができたらと考えています。実際に、昨年度宮川小学校では、【資料2】の「15. 参加児童」にも記載しているとおり、6年生の子どもたちがたく

さん参加してくれ、1年生の子どもたちのお世話をしてくれて、お姉さんやお兄さんとしてとても頼もしい姿を見せてくれました。そのような交流をとおして高学年のそのような頼もしい姿を見ることで、低学年の子どもたちにとっても、自分も大きくなったらこのようになりたいと思ってもらえる機会になるかとも思っています。

ボランティアについては、もっと地域の方に御協力いただけたらと思っています。また、キッズスクエアのスタッフは、芦屋市シルバー人材センターに委託している学校を除いてほとんどが女性ですので、もっと男性のスタッフも増やせたらと思っています。芦屋市には60、65歳まで仕事をされていて、退職までは芦屋市には寝るためだけに帰られていた方も多いかと思いますが、そのような方が急に一人でキッズスクエアに来られることはなかなか難しいかと思えます。そのような方々がグループを作っていたら、よりキッズスクエアにも来ていただきやすいのではないかと思います。

大学生のボランティアについて言えば、以前に面接をしたことがある方であれば、当日に連絡をいただいた場合でも急遽ボランティアとして入っていただくことがあります。大学生は予約制にしてしまうとなかなかボランティアに参加することが難しくなってしまうので、「急遽授業が休講になったからボランティアに行ってもよいか」というような連絡をいただければ、入っていただいています。学生のボランティアについては、山手中学校区は甲南高校生に、精道中学校区は県立芦屋高校生に入っているだけで、大学生にはできるだけ潮見中学校区へ入っていただくことが多いです。それでも、潮見中学校区のボランティアはまだまだ少数ではあるので、安全性を担保しつつどのように地域の方にボランティアに入っているようにするか、どのような方に関わってもらえたらよいのかなど、現在模索しているところです。地域の方が学校の敷地へ入るといふことへのハードルは高いかとは思いますが、そのハードル自体もある程度高くしておかないと、誰でも入られてしまうような状態になってしまい安全性が担保できませんので、どのようにしていけばいいかご意見をいただけたらありがたいです。

<木下委員>

学校教育の話が途中で挙がりましたので、意見を申し上げます。芦屋市の子どもたちは、すごく恵まれていると思っています。私たちが子どもの頃は、新聞紙を使ってバットにして野球をするなど、自分たちで遊び方を考えていました。キッズスクエアのプログラムでも「だがしやチャレンジ」のような体験をとおして子どもたちが自分たちで主体的に考えて動いているというところでは学校教育とリンクするところであり、非常によい取組であると思います。学校側としても、今後も引き続き、キッズスクエアでされている取組と学校での取組とを互いに情報共有し、子どもたちの成長のためにつなげて行くことができたらと思っています。

また、【資料2】の「28. 事故報告」に記載されている「骨折」が気になりました。学校での教育活動で怪我は付き物ではありますが、安心安全であることが一番でありますので、この骨折がどのように起こったのか伺いたいです。

<事務局：上田>

卒業式の前日に、小雨の降る中1人で遊びに来てくれた6年生の子どもが、固定遊具の上から落ちてしまい、発生したものです。脚と指の一部が骨折し、その子は中学校に

入ってからもしばらくは松葉杖を使い、病院にも長い期間通われました。キッズスクエア実施中に起こった一番大きな事故はこの件です。

木下委員のおっしゃるように、子どもたちが自分で考えて自由に遊ぶことが一番大切であると思っています。もちろん、プログラムは大人から見ても魅力的ではありますが、その一方で子どもたちが自主的に、自分たちの興味のあることを、自分たちで仲間を集めて遊ぶことで培われるものも大きいので、すべての時間をプログラムで埋めてしまうのではなく、子どもたちが一から自分たちで考えられるような時間も大事にしたいと思っています。

プログラムの趣旨としても、例えば囲碁のプログラムの目的は、囲碁の技術を高めるという点ではなく、囲碁をとおして新たな人々と出会う機会を提供するところにあります。プログラムも何もないところに地域の方に来ていただくことは難しいと思いますし、地域の方にも「囲碁を教えてください」というようにお声かけをしていますが、囲碁がなければそもそも子どもたちが地域の方と親しい関係にはならないと思います。そのように、囲碁や将棋などをとおして、技術を磨く場ではなく、子どもたちと地域の方とが出会える場にキッズスクエアがなれていると思っています。

子どもたちとの交流という点について言えば、高校生にとってもよい機会になっていると思います。普段、小学生と高校生が交流する機会はなかなかないかと思っています。キッズスクエアでは体験プログラムをとおして小学生と高校生が交流し、小学生は高校生を大変慕っており、高校生にとっても自己肯定感を高めることができるよい機会になっていると思います。

キッズスクエアの運営会議に通常は学校から教頭先生に入っているのですが、低学年担当の先生にも仕事に支障のない可能な範囲でオブザーバーとして入っていただき、キッズスクエアの実施内容を聞いていただくことで、今後キッズスクエアのことについてより御理解いただける機会を設けることができたらとも考えています。

<孝岡委員>

先ほど池田委員がおっしゃったような子どもたちと地域の方との関係性は、非常によいと思います。

地域のなかには、囲碁や将棋のように子どもたちに教えられるような趣味を持っている方もいらっしゃいますが、その方々に、「子どもたちに教えられるような場がある」という情報を提供しない限りは、そのことを知る由もないかと思っています。広く公募することで、ボランティアを希望される方がたくさん来てしまうことの不安もあるかとは思いますが、来ていただけそうな方に告知をすることもまずは必要なのではないかと思います。

また、マネージャーの話に移りますが、マネージャーやプログラム指導員、安全管理員を管理するようなマネージャーを設けるのはいかがでしょうか。アルバイトなどでよくある「統括マネージャー」のような立場の人です。子どもたちに関わるスタッフを管理・指導するそのような責任者がいれば、保護者の方もより安心されると思うのですがいかがでしょうか。

<事務局：上田>

エリアマネージャーのような立場ということですね。そのような立場の方を地域から募集するというということでしょうか。

<孝岡委員>

もしそのような制度を導入することになれば、地域から決めるかなどはまた改めて決める必要が生じてくると思います。初めは行政職員が務めるのも一つの手だと思います。

<事務局：上田>

地域学校協働本部事業では統括コーディネーターを配置することができます。芦屋市では、青少年育成課で直轄する部分も残しつつ、8校区内のどこかの地域の方に、8校のどこにも所属しない形で統括的コーディネーターとして動いていただける方を配置することは今後キッズスクエアを持続可能な事業として継続する上で必要になると思っています。再雇用の方や地域の方にも御協力いただきながら、統括コーディネーターが上手に配置できるよう、行政でも更に協力していけたらと考えています。

<孝岡委員>

統括コーディネーターの配置について進めつつ、同時に地域の方へのボランティアについての情報周知もしていただけたらと思います。

<事務局：上田>

統括コーディネーターの配置が進めば、学校教育と共に何かをすることになった場合に、統括コーディネーターの方がそのまま地域学校協働本部の統括コーディネーターになっていただける可能性もあります。その辺りも含め、事業を幅広くできるような可能性を引き続き模索していきたいと思っています。

<酒井委員長>

では次に、議題（3）平成31年度放課後プラン事業について、事務局より説明をお願いします。

<事務局：金子>

（配布資料：【資料3】に基づき説明）

<長谷川委員>

本日の配布資料に、文部科学省からの「新・放課後子ども総合プラン」についての通知の写しが配布されていますが、この通知を受けて、平成30年度の内容に加えて、何か事業計画が新しくなるような案はありますか。

<事務局：近田>

通知に「放課後児童クラブ及び放課後子供教室を一体的に又は連携して実施し～」とあるように、留守家庭児童会とあしやキッズスクエア事業との連携のことも盛り込まれているのですが、この件については現在調整中です。連携して実施するにあたり詰めなければ

ならない事項がいくつもあるため、平成31年4月1日からすぐに連携しての実施なるかどうかについても調整中のため未定ですが、連携するという方針で進める予定にはなっておりません。

<法兼委員>

放課後プラン事業に直接関係するかはわかりませんが、質問があります。芦屋市のホームページで、留守家庭児童会の待機児童を減らすため、浜風小学校などに他校の待機児童をバスかタクシーで送迎するような図を拝見しました。送迎に関する安全性や、どの学校の待機児童がどの学校へ送迎される形になるのかなどについて、決まっていることがあれば伺いたいです。

<事務局：近田>

現在、次年度の入会申込期間が終了し集計している段階であるため、どの程度送迎が必要なのかは確定しておりません。人数が確定していないため、送迎方法についてはまだ確認できていない段階ではありますが、想定では施設の拡張ができない山手小学校及び宮川小学校は定員を超えている可能性があるため、次年度より山手小学校の待機児童は岩園小学校へ、宮川小学校の待機児童は浜風小学校へ送迎する予定です。

送迎方法は人数によって変わりますが、タクシーや小さいバスなどで送迎する予定です。

<法兼委員>

例えばキッズスクエアでは、参加している高学年の子どもたちの中には最後まで参加する子どもや、途中で帰る子どももいます。同様に留守家庭児童会でも、塾があるなどの理由で、途中で帰ることを希望する子どもたちがいるかと思えます。待機児童のため他の学校で保育を受け入れられている子どもで、そのように途中帰宅を希望された場合は、その時間に合わせて通学している小学校へ送迎されるのでしょうか。その場合の子どもたちの安全性は確保されるのでしょうか。

<事務局：近田>

そのあたりについて、何時に通学している小学校へ戻っていただくかなどは保護者の方と相談してから決定していくことを基本に考えています。

安全性があって初めて成り立つものですので、当然安全性の確保はいたします。

<事務局：山崎>

送迎する場合、子どもたちだけを他校に送るというわけではなく、そこには必ずスタッフが伴います。その点でも、安全性は確保しながら送迎をするということになります。

<酒井委員長>

では次に、(4) その他について、事務局より説明をお願いします。

<事務局：金子>

(事務局より説明)

<酒井委員長>

それでは、第2回放課後子どもプラン運営委員会を閉会します。

閉会